

授業科目名： 子どもの発達と感情	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 熊野 みき
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 【心（情緒・感情、社会性等）の発達理論と実際】 (1) 乳児期，幼児期，児童期，青年期それぞれの時期の心理的発達における特徴を理解する。 (2) 心理的発達の中でも特に，情緒・感情や社会性について取り上げ，他領域（認知，言語，社会的関係）の発達との関連性について説明することができる。 (3) 教育現場等で見られる子どもの様々な具体的体験を情緒・感情や社会性の発達に関する理論から捉えるとともに，受講者各自の経験も振り返り，対話的に共有・省察できる。			
授業の概要 子どもの心の発達について，生涯発達の視点に立ち，特に情緒・感情や社会性に関わる理論を学ぶとともに，学校における子どもたちの体験や抱える課題について理解を深め，教育実践・支援について考える。青年期までの情緒・感情に関わる発達理論を発達心理学や臨床発達心理学の領域より紹介し，それらと虐待やいじめ，不登校，自然災害等の被害，進路選択や自立等の学校現場で関わることのある課題とを関連して捉えることで，多角的に子どもや課題を理解し，実践・支援につなげていくことを目指す。主要なテーマとしては，人生早期からの情緒発達，愛着，自己意識，自己効力感，自尊感情，感情のコントロール，アイデンティティ，レジリエンスなどである。また，必要に応じて，情緒・感情や社会性と関連する認知（想像力，思考，記憶，メタ認知）の発達や，社会的関係（家族，仲間，教師）などにも触れ，実践・支援を考える。 授業スタイルは，受講者が関心に応じてテーマを分担し文献学習による発表を行い，議論する。それと組み合わせて授業者は理論面の解説と発表の補足講義，及び実践例の提示やワークによる演習機会の提供を行う。			
授業計画 第1回：授業のねらいと各回のテーマ概説，および授業の進め方について 第2回：発達心理学概論（生涯発達，発達段階の考え方） 第3回：エリクソンの心理 - 社会的発達理論 第4回：乳児期の心の発達（基本的感情，親子関係，分離 - 個体化） 第5回：愛着の生涯発達			

第6回：幼児期の心の発達（移行対象，自己意識的感情，第一次反抗期）
 第7回：遊びと発達（想像力，社会性，描画発達）
 第7回：児童期の心の発達（道徳性，認知発達）
 第8回：学習に関わる心の発達（やる気，自己効力感）
 第9回：学校における人間関係といじめの問題
 第10回：心の発達からみた不登校
 第11回：青年期の心の発達1（心理的離乳，アイデンティティ形成，不安・孤独感）
 第12回：青年期の心の発達2（恋愛感情と性的発達，進路選択）
 第13回：事故・災害等への心の反応と，レジリエンス
 第14回：事例理解の演習
 第15回：全体のまとめ（心理的発達の観点からの子ども理解を実践に生かしていくために）

テキスト

特に指定せず，教員が適宜資料配付し，発表者には文献を紹介し検索を指導する。

参考書・参考資料等

「エピソードでつかむ生涯発達心理学」（岡本祐子・深瀬裕子（編著） ミネルヴァ書房 2013）

「よくわかる情動発達」（遠藤利彦他（編著） ミネルヴァ書房 2014）

「よくわかる発達心理学」（無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2004）

学生に対する評価

毎回の授業への参加（ディスカッション，発表への感想・コメント記入）：30%

発表の文献調査の質とプレゼンテーション：50%

最終レポート：20%

授業科目名： 子ども理解の心理アプローチ(調査法)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 熊野 みき
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 【教師による子ども理解を省察し、理解のための基礎的な心理学的方法を習得する】 1. 教師による子ども理解の重要性と、理解のための方法やその過程で陥りやすい問題を知り、省察的に幼児・児童・生徒理解に取り組む上で重要な条件を説明できる。 2. 心理学研究法の中でも、面接法、質問紙法などの子ども理解のための方法の基本を習得し、倫理的配慮のもと、適切に用いることができる。			
授業の概要 本授業は、学校教育における「教師による子ども理解」のしくみと働きを理解し、実践的・省察的態度のもとで子ども理解に取り組む基礎を修得することを目指す。まず、子どもへの理解を含む自己・他者理解の仕組みに関する理論に触れ、ステレオタイプ等の影響とそれに気づく省察や共感的理解の重要性を学ぶ。また学校の様々な場面で児童・生徒理解に活用される面接法、質問紙調査法、および統計的分析法などの心理学的調査方法の基礎を実習し、そこで求められる倫理的配慮も併せて学ぶことにより、教育現場でそれらの調査方法を実践に活かすための素養を習得する。			
授業計画 第1回：教師による子ども理解：子ども理解の実践上の重要性と、その目的・方法の多様性 第2回：人をわかろうとする心理的しくみと理論：ステレオタイプと共感的理解・省察 第3回：理解のための面接法（1）面接(インタビュー)の方法的特徴と留意点（倫理的配慮）、実践例の検討と模擬演習（観察、質問、傾聴、理解） 第4回：理解のための面接法（2）調査面接の準備（質問内容・インタビューガイド、用具・場所、面接協力者の選定と依頼） 第5回：理解のための面接法（3）調査面接の実施（教示、インフォームド・コンセント、ラポールの形成、半構造化面接、記録、時間管理） 第6回：理解のための面接法（4）調査面接データの整理・分析・読み取り（質的研究法、逐語録の作成、カテゴリー化） 第7回：理解のための面接法（5）調査面接結果のレポート作成と考察、まとめ・振り返り 第8回：理解のための質問紙法（1）質問紙法の方法的特徴と留意点（倫理的配慮）、方法の多様性と長所短所			

第9回：理解のための質問紙法（2）質問紙の作成①（調査テーマの決定と質問紙の設計） 第10回：理解のための質問紙法（3）質問紙の作成②（項目の収集と精選、表紙・教示と評定尺度） 第11回：理解のための質問紙法（4）対象者の選定と依頼、調査の実施(配付・回収とデータ整理) 第12回：理解のための質問紙法（5）データの分析① 入力、記述統計、クロス表、信頼性 第13回：理解のための質問紙法（6）データの分析② 相関、平均値の差の比較、統計的仮説検定 第14回：理解のための質問紙法（7）図表の活用と結果の読み取り・考察（共同での振り返り） 調査レポートのまとめ方、書き方 第15回：全体のまとめ：子ども理解の心理アプローチの活用と今後の課題
テキスト 「生徒指導提要」（文部科学省、2022）
参考書・参考資料等 「心理調査の基礎—心理学方法論を社会で活用するために」（日本心理学会（監修） サトウタツヤ・鈴木直人（編） 有斐閣 2017） 「心理学研究法」（村井潤一郎（編著） サイエンス社 2012） 「調査的面接の技法 第2版」（鈴木淳子（著） ナカニシヤ出版 2005） 「心理学マニュアル質問紙法」（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（編著）北大路書房 1998） 「質問紙調査の手順」（小塩真司・西口利文（編著）ナカニシヤ出版 2007） 「教育・心理系研究のためのデータ分析入門—理論と実践から学ぶSPSS活用法 第2版」（平井明代（編著） 東京図書 2017） 「SPSSによる心理統計」（山田剛史・鈴木雅之（著） 東京図書 2017）
学生に対する評価 1. 基本概念に関するレポートと面接および質問紙調査実習に関するレポートの論述（70%） 2. 共同的演習への参加やディスカッションでの貢献（30%）

授業科目名： 特別支援教育の理論 と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 檜木 暢子、加藤 哲則、 吉松 靖文、荻田 知則、 中野 広輔、富田 享子 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 【特別支援教育の事例分析】 ①各障害について理解し、障害の概要、支援方法について説明できる。 ②特別支援教育、インクルーシブ教育の動向を理解し、概説することができる。 ③通常の学級等に在籍する特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒に対して、具体的な支援方法を考察することができる。			
授業の概要 本講義では、特別支援教育の動向、各障害に関する基礎的理解、障害のある人のキャリア発達と社会的自立に向けての支援について講義を行う。学習方法として、理解を深めるためのグループワークを積極的に活用する。また、実践的指導力の育成を視野に入れ、通常の学級等に在籍する特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒への対応を理解し、具体的な支援方法を考察する。			
授業計画 第1回：特別支援教育、インクルーシブ教育、合理的配慮と基礎的環境整備（檜木） 第2回：視覚障害の理解（荻田） 第3回：聴覚障害の理解（加藤） 第4回：知的障害の理解（吉松） 第5回：肢体不自由（運動機能障害）の理解（中野） 第6回：病虚弱の理解（中野） 第7回：発達障害の理解（ADHD、ASD）（富田） 第8回：発達障害の理解（LD等）（富田） 第9回：個別の教育支援計画と個別の指導計画（吉松） 第10回：キャリア発達と社会的自立（加藤） 第11回：特別支援教育における健康教育（檜木） 第12回：通常の学校に在籍する子どもへの支援（小学校低学年）（檜木） 第13回：通常の学校に在籍する子どもへの支援（小学校高学年）（檜木） 第14回：通常の学校に在籍する子どもへの支援（中学校・理系教科）（荻田）			

第15回：通常の学校に在籍する子どもへの支援（高等学校）（中野）

最終課題

テキスト

特別支援教育免許シリーズ「特別支援教育概論」 建帛社（花熊暁・川住隆一・荻田知則，建帛社，令和2年1月）

文部科学省 特別支援学校幼稚部教育要領（平成29年4月）

文部科学省 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月）

文部科学省 特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年改訂）

文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説総則編（平成30年3月）

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（平成30年3月）

特別支援学校学習指導要領解説教科等編（平成30年3月）

参考書・参考資料等

特別支援教育ハンドブック（飯野順子・岡田加奈子・玉川進編著，東山書房，2014）

特別支援教育にかかわる養護教諭のための本（飯野順子監修 杉本健郎医学監修，ジアース教育新社，2013）

学生に対する評価

討議・報告・授業への取り組み（30%）、知識理解に関するミニテスト（30%）、レポート等（40%）

授業科目名： 学級経営の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾 茂樹、城戸 茂、 藤原 一弘
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
【質の高い学級経営観の醸成】			
(1)学級経営（以下、幼稚園における集団づくりを含む）の基礎的理論について理解し、学級経営の重要性について説明ができる。			
(2)学級経営の具体的な手法について理解し望ましい学級経営案の作成を行うことができる。			
授業の概要			
現代の教育課題への対応などをふまえ、望ましい学級経営の在り方とその方法論について、特別活動や学級づくりの視点から検討する。まず学級経営の理論的展開として、準拠集団論、リーダーシップ論などについての理解を深め、学級経営の基本的な視座を獲得する。その上で具体的な学級経営の方法について、実践事例を中心とした検討と具体的な学級経営案の作成を行い、望ましい学級経営の在り方についての実践的指導力を育成する。			
授業計画			
第1回：学級経営の今日的課題（講義）		（担当：中尾茂樹、藤原一弘）	
第2回：学級経営の理論（1）（講義）		（担当：中尾茂樹）	
第3回：学級経営の理論（2）（講義・演習）		（担当：中尾茂樹）	
第4回：学級経営と集団づくり（講義）		（担当：中尾茂樹）	
第5回：学級経営の事例分析（1）：幼稚園・小学校（講義）		（担当：中尾茂樹）	
第6回：学級経営の事例分析（2）：小学校（講義）		（担当：藤原一弘）	
第7回：学級経営の事例分析（3）：小学校・中学校（講義）		（担当：藤原一弘）	
第8回：学級経営の事例分析（4）：中学校・高等学校（講義）		（担当：藤原一弘）	
第9回：学級経営と教師間・校種間連携（講義・演習）		（担当：藤原一弘）	
第10回：学級経営とカリキュラム（講義・演習）		（担当：藤原一弘、城戸茂）	
第11回：学級経営案の作成（1）：学級経営案の概要（講義）		（担当：城戸茂）	
第12回：学級経営案の作成（2）：作成上の留意点と作成作業（演習）		（担当：城戸茂）	
第13回：学級経営案の作成（3）：小学校事例の発表会（演習）		（担当：城戸茂）	
第14回：学級経営案の作成（4）：中・高等学校事例の発表会（演習）		（担当：城戸茂）	
第15回：授業総括・これからの学級経営と教師像（講義）		（担当：城戸茂、中尾茂樹）	

テキスト 文部科学省 小学校学習指導要領解説（特別活動編）（平成29年7月） 文部科学省 中学校学習指導要領解説（特別活動編）（平成29年7月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説（特別活動編）（平成30年7月）
参考書・参考資料等 適宜，指示する。
学生に対する評価 討議、報告、授業への取組、レポートを総合的に評価する。

授業科目名： 学校組織のリーダーシップ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 露口 健司
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
・ 現職教員：校区レベルで人々を動かすために、自校の問題を洗い出し、変革のための具体的方法を提案することができる。 ・ 学部卒業者等：学級の子どもや保護者を動かすために、学級の問題を洗い出し、変革のための具体的方法を提案することができる。			
授業の概要			
学校組織とリーダーシップに関する基礎理論の理解を深めるとともに、講義において学習した理論・視点に基づき実習校において調査を行う。その結果を1週間後の演習・協議枠の中で、グループ代表者が発表し、ミニ協議を行う。学校改善の理論と実践の往還を意図した授業デザインを持つ授業科目である。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：危機意識と学校評価【講義】			
第3回：危機意識と学校評価【演習・協議】			
第4回：ビジョンと組織文化の変革【講義】			
第5回：ビジョンと組織文化の変革【演習・協議】			
第6回：目標管理制度の効果的運用【講義】			
第7回：目標管理制度の効果的運用【演習・協議】			
第8回：チームワークを高めるリーダーシップ【講義】			
第9回：チームワークを高めるリーダーシップ【演習・協議】			
第10回：保護者との信頼を構築するリーダーシップ【講義】			
第11回：保護者との信頼を構築するリーダーシップ【演習・競技】			
第12回：学校と地域をつなぐリーダーシップ【講義】			
第13回：学校と地域をつなぐリーダーシップ【演習・協議】			
第14回：経営戦略の策定			
第15回：経営戦略の発表とまとめ			
定期試験			

テキスト

なし（毎回資料配付）

参考書・参考資料等

露口健司『学校組織のリーダーシップ』大学教育出版

露口健司『学校組織の信頼』大学教育出版

篠原清昭『学校管理職養成講座：スクールリーダー養成のための12講』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

事前課題の遂行状況，演習・協議への参加状況，授業内課題の遂行状況，最終レポートを考慮して総合的に判断する。

授業科目名： 教員の成長と職業倫理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 一色 芳枝、掛水 高志、 佐藤 栄治、田頭 良博、 高橋 平徳
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
【教員の職能成長と職業倫理の深い理解】			
到達目標は次の3点である。			
(現職教員)			
①教員のライフステージごとに求められる資質・能力を理解し、自らの目標選定を行うことができる。			
②インタビューを行い、質的研究法を用いて、そこからの知見を抽出することができる。			
③教員のキャリア発達と職業倫理の関連性について考察することができる。			
(学部卒業生)			
①若手教員のライフステージに求められる資質・能力を理解し、自らの目標選定を行うことができる。			
②インタビューを行い、質的研究法を用いて、そこからの知見を抽出することができる。			
③教員のキャリア発達と職業倫理の関連性について考察し、説明することができる。			
授業の概要			
社会の大きな変動する中、教員に対する揺るぎない信頼を確立できるよう、確かな倫理観に基づき、日々の成長していくことで教員の資質能力を高めることが重要である。そのために本講座では、学校が法令に基づき運営されていることから前半は教育関係法令に熟知し、自分自身の在り方を改善する知見を得ることを目的としている。しかしながら、自身の各ライフステージに応じしっかりとした目標を掲げて適切な発達を行っていれば、取り立てて法令や規則の確認に終始しなくとも、健全で豊かな教員人生を送ることができる。そこで、後半には、教員のキャリア発達をライフステージごとに理解し、そこで求められる資質や能力をまとめることと、職業倫理の認識の深化過程を理解することを目的としている。			
授業計画			
第1回：教員の服務とは何か、教師の職業倫理とは何か (担当: 高橋・掛水・田頭・佐藤・一色)			
第2回：新聞記事にみる教員の引き起こす問題 (担当: 高橋・掛水)			
第3回：教員の職業倫理Ⅰ～学校の常識が法で裁かれるとき～ (体罰) (担当: 掛水・一色・田頭)			

第4回：教員の職業倫理Ⅱ～学校の常識が法で裁かれるとき～（いじめ）（担当：掛水・一色・田頭） 第5回：教員の職業倫理Ⅲ～学校の常識が法で裁かれるとき～（学校事故）（担当：掛水・一色・田頭） 第6回：教員のライフステージとそこで求められる資質・能力（担当：高橋・掛水） 第7回：教員のキャリア発達Ⅰ～ライフヒストリー法～（担当：高橋・掛水） 第8回：教員のキャリア発達Ⅱ～インタビュー法～（担当：高橋・掛水） 第9回：新規採用教員、若手教員の資質・能力の分析（担当：掛水・一色・田頭） 第10回：学年主任等ミドルリーダー的教員の資質・能力の分析（担当：掛水・田頭・佐藤） 第11回：管理職等リーダー的立場の教員の資質・能力の分析（担当：掛水・田頭・佐藤） 第12回：現代社会が求める教員の資質・能力とキャリア発達（担当：掛水・田頭・佐藤） 第13回：教員のライフステージごとの課題のまとめⅠ 20～30代半ば（担当：高橋・掛水・田頭・佐藤・一色） 第14回：教員のライフステージごとの課題のまとめⅡ 30代半ば以降（担当：高橋・掛水・田頭・佐藤・一色） 第15回：講義のまとめ～教師の生きがい、幸福を目指す教師論の検討～（担当：高橋・掛水・田頭・佐藤・一色）
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 篠原清昭編著『教育のための法学』ミネルヴァ書房 露口健司『学校組織のリーダーシップ』大学教育出版
学生に対する評価 ・研究手法としてのライフステージ法とインタビュー法を理解し、それを実践で活用することができる。 ・ライフステージごとの資質や能力と、そこでの職業倫理についてまとめることができる。 ・学校の常識が法で裁かれることの意味を理解し、日々の教育実践の法的根拠を理解することができる。 以上の観点から、学生の学習態度や小レポートの成績を総合的に判断する。

授業科目名： 教師のライフヒストリー 省察と資質能力開発	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白松 賢
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 本授業は「教師のライフヒストリー」研究（質的調査法）の手法を用いながら、教師としての資質能力を向上させることを目的とする。 (1) ライフサイクル／ライフヒストリーモデルによる資質能力開発の違いが説明できる。 (2) ライフヒストリー分析を用いて教師の仕事と生活の在り方を考察することができる。 (3) 社会の変化からみる教師のソーシャルスキルの重要性と適応方法を説明することができる。			
授業の概要 本授業は、発達理論としてのライフサイクル論とナラティブ理論としてのライフヒストリー論の相違点を理解し、教師の資質能力開発の様々な文脈を考察する。そして、ライフヒストリーの手法を用いて、教師の仕事と生活の在り方を分析し、事例研究を行う。また教師の仕事と生活に影響を与える社会の変化を理解し、変化の激しい社会における教師のソーシャルスキルの重要性とソーシャルスキルの適応方法について、ワークショップを交えて実践的に考察する。			
授業計画 第1回：教師の仕事と生活 第2回：ライフサイクル論と教師の成長 ー教員スタンダードの理解ー 第3回：ライフヒストリー論からみる教師の成長 第4回：仕事の文脈で考える教師の成長 第5回：生活の文脈で考える教師の成長 第6回：省察モデルとしてのライフヒストリー法 第7回：ライフヒストリー法による教職理解の実践(1) ーフィールド演習の方法 第8回：ライフヒストリー法による教職理解の実践(2) ー幼稚園・小学校 第9回：ライフヒストリー法による教職理解の実践(3) ー中学校 第10回：ライフヒストリー法による教職理解の実践(4) ー高等学校 第11回：ライフヒストリー法による教職理解の実践(5) ープレゼンテーション 第12回：社会の変化と教職生活の変化 第13回：変化の激しい社会の仕事術・ソーシャルスキル ーワークショップ			

第14回：教師のソーシャルスキルトレーニング　ーワークショップ
第15回：まとめ　ーこれからの教職生活に向けて
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 参考資料：グッドソン，I.F（2006）『ライフヒストリーの教育学』（昭和堂） 白松賢（2017）『学級経営の教科書』（東洋館）
学生に対する評価 レポート50%、プレゼンテーション30%、ワークショップ20%

授業科目名： チーム学校協働演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 中尾 茂樹、一色 芳枝、 山本 浅幸、藤田 昌子、 青井 倫子、富田 享子
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
【授業テーマ】			
チームとしての学校を機能させる人材育成			
【到達目標】			
学部卒業者：チーム学校専門スタッフとの協働学習を通して、チーム学校専門スタッフの役割や業務内容を理解し、チーム学校の一員として機能できる人材としての基礎を習得する。			
現職教員：チーム学校専門スタッフとの協働学習を通して、チーム学校専門スタッフの役割や業務内容を理解し、チーム学校を牽引するリーダー人材としての資質能力を習得する。			
授業の概要			
チーム学校専門スタッフ（準スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、情報通信技術支援員、教員業務支援員、地域学校協働活動推進員、特別支援教育支援員等）の現職及び候補者と、これらの職種の業務内容や効果的実践事例等について学習し、教員との適切な協働の在り方を探究する。本科目は、①地域連携、②教育福祉、③教育相談、④特別支援、⑤改革提案の5つの下位プログラムから構成される。地域連携、いじめ、不登校、特別支援教育等を、教員だけでなくチーム学校専門スタッフ（外部人材）との連携の視点から分析・考察しようとする点に本科目の特徴がある。			
地域のチーム学校専門スタッフ及び候補者に開放された授業科目であり、主として、土日・長期休業日を利用した通年集中講義の形態をとる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス （担当：全員）			
第2回：地域連携（1）地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の役割と業務内容 （担当：中尾茂樹、外部講師）			
第3回：地域連携（2）学校・家庭・地域の連携ネットワーク構築 （担当：中尾茂樹、外部講師）			
第4回：地域連携（3）コミュニティ・スクール実践の事例分析1：宇和島市の事例 （担当：中尾茂樹、外部講師）			

第5回：地域連携（4）コミュニティ・スクール実践の事例分析2：四国中央市の事例

（担当：中尾茂樹、外部講師）

第6回：地域連携（5）地域学校協働活動の開発演習1：防災事例

（担当：中尾茂樹、外部講師）

第7回：地域連携（6）地域学校協働活動の開発演習2：登下校安全事例

（担当：中尾茂樹、外部講師）

第8回：教育福祉（1）スクールソーシャルワーカーの役割と業務内容

（担当：藤田昌子、外部講師）

第9回：教育福祉（2）学校・家庭・地域の連携ネットワーク構築

（担当：藤田昌子、外部講師）

第10回：教育福祉（3）ケース会議演習：小学生の不登校事案

（担当：藤田昌子、外部講師）

第11回：教育福祉（4）ケース会議演習：中学生の不登校事案

（担当：藤田昌子、外部講師）

第12回：教育福祉（5）ケース会議演習：経済的困窮事案

（担当：藤田昌子、外部講師）

第13回：教育福祉（6）ケース会議演習：地域的孤立事案

（担当：藤田昌子、外部講師）

第14回：教育相談（1）スクールカウンセラーの役割と業務内容

（担当：一色芳枝、山本浅幸、外部講師）

第15回：教育相談（2）学校・家庭・地域の連携ネットワーク構築

（担当：一色芳枝、山本浅幸、外部講師）

第16回：教育相談（3）不登校事例のケース分析1：小学生の事例

（担当：一色芳枝、山本浅幸、外部講師）

第17回：教育相談（4）不登校事例のケース分析2：中学生の事例

（担当：一色芳枝、山本浅幸、外部講師）

第18回：教育相談（5）いじめ事例のケース分析1：小学生の事例

（担当：一色芳枝、山本浅幸、外部講師）

第19回：教育相談（6）いじめ事例のケース分析2：中学生の事例

（担当：一色芳枝、山本浅幸、外部講師）

第20回：特別支援教育（1）特別支援教育支援員の役割と業務内容

（担当：富田享子、青井倫子、外部講師）

第21回：特別支援教育（2）学校・家庭・地域の連携ネットワーク構築

（担当：富田享子、青井倫子、外部講師）

第22回：特別支援教育（3）読み書き困難への対応

(担当：富田享子、青井倫子、外部講師) 第23回：特別支援教育（4）計算・推論困難への対応 (担当：富田享子、青井倫子、外部講師) 第24回：特別支援教育（5）行動上の問題への対応 (担当：富田享子、青井倫子、外部講師) 第25回：特別支援教育（6）個別指導計画の作成演習 (担当：富田享子、青井倫子、外部講師) 第26回：チーム学校に係る改革案 発表会準備（1）：コンテンツ開発編 (担当：全員) 第27回：チーム学校に係る改革案 発表会準備（2）：プレゼン準備編 (担当：全員) 第28回：発表会（1）前半グループの発表 (担当：全員) 第29回：発表会（2）後半グループの発表 (担当：全員) 第30回：まとめ (担当：全員)
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 藤原文雄・生重幸恵・竹原和泉・谷口史子・森万喜子・四柳千夏子著『学校と地域をつなぐ』学事出版、2021年 熊谷慎之輔・志々田まなみ・佐々木保孝・天野かおり著『地域学校協働のデザインとマネジメント』学文社、2021年 竹鼻ゆかり他著『教師のためのスクールソーシャルワーカー入門—連携・協働のために』大修館書店、2019年 田多井正彦著『学校では教えないスクールカウンセラーの業務マニュアル——心理支援を支える表に出ない仕事のノウハウ』遠見書房、2021年 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著『特別支援教育の基礎・基本』ジアース教育新社、2020年
学生に対する評価 各プログラムにおける参加態度、小レポート、改革提言の内容を総合的に評価する。

授業科目名： 愛媛の教育改革	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 露口 健司、城戸 茂、 佐藤 栄治、田頭 良博
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
【愛媛県における教育改革の動向と課題】			
以下の２点を到達目標として設定する。			
(1)愛媛県における教育改革の全体像，背景・文脈，具現化実態を理解することができる。			
(2)愛媛県の教育課題の克服に資する自己の研究課題をエビデンスに基づき提案することができる。			
授業の概要			
第１ステージでは，教育研究の方法について学習した後、愛媛県の教育の現状や課題について，県及び市町の教育行政担当者及び研究団体、管理職の講話を通して理解する。大学教員や外部講師の講義が中心となる。			
第２ステージでは，実地視察を通して，当該教育改革が求められる背景・文脈，並びに教育改革が具現化する過程について探究を行う。教育委員会や学校での実施学習が中心となる。			
第３ステージでは，愛媛県教育委員会が示す基本方針及び、愛媛の教育課題を踏まえ、自己の研究課題を示しその意義についてエビデンスを踏まえて説明し、協議することを通して自己の研究課題を鮮明にする。このステージでは，大学内での演習が中心となる。			
授業計画			
第１回：ガイダンス・教育研究の進め方（講義）（担当：城戸・露口・田頭・佐藤）			
第２回：教育研究ガイドマップ（演習）（担当：露口）			
第３回：愛媛県の教育実態 ―データにみる現状―（講義・演習）（担当：露口）			
第４回：愛媛県教育委員会が進める改革：【外部講師（愛媛県教育委員会義務教育課・高校教育課・特別支援教育課管理職）】（講義）（担当：城戸）			
第５回：市町教育委員会が進める改革：【外部講師（市町教育委員会教育長級）】（講義）（城戸）			
第６回：愛媛県の教育研究団体が進める改革：【外部講師（愛媛県教育研究協議会会長）】（講義）（担当：田頭）			
第７回：愛媛県の小・中学校が進める改革：【外部講師（愛媛県公立小・中学校長）】（講義）（担当：田頭）			
第８回：愛媛県の高等学校が進める改革：【外部講師（愛媛県公立高等学校長）】（講義）（担当：佐藤）			
第９回：実地視察（１）確かな学力、豊かな心を育てる教育（演習）（担当：城戸・田頭）			
第１０回：実地視察（２）教職員の資質・能力の向上（演習）（担当：城戸・佐藤）			
第１１回：実地視察（３）チーム学校と学校組織の活性化（演習）（担当：城戸・露口）			
第１２回：発表（１）愛媛の教育課題と研究テーマ：課題グループＡ（演習）（担当：城戸・露口・田			

頭・佐藤) 第13回：発表(2) 愛媛の教育課題と研究テーマ：課題グループB (演習) (担当：城戸・露口・田頭・佐藤) 第14回：発表(3) 愛媛の教育課題と研究テーマ：課題グループC (演習) (担当：城戸・露口・田頭・佐藤) 第15回：全体のまとめ (演習) (担当：城戸・露口・田頭・佐藤)
テキスト 特になし (資料配付)
参考書・参考資料等 各回に適宜資料を配布。
学生に対する評価 事前課題の遂行状況，演習・協議への参加状況，授業内課題の遂行状況，最終レポートを考慮して総合的に判断する。

授業科目名： 特別な教育ニーズへの対応	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 檜木 暢子、荻田 知則 担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 【発達課題の理解と特別な教育的ニーズに応じた学習指導案の作成】 ①認知、心理、運動機能、社会性等の発達段階について理解し、学齢期の発達課題を説明できる ②特別な教育的ニーズを有する事例について、学校全体での支援、家庭や地域との連携について具体的な方策を提示できる			
授業の概要 特別支援教育の進展に伴い、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの対応が学校教育の課題となっている。この課題に対して本授業では、子どもの発達段階及び学齢期の発達課題について理解を深め、様々な事例への対応方法を検討する。また、実習での経験を踏まえて、特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの対応を含めた学習指導案を作成し、具体的な方策を検討する。			
授業計画 第1回：問題の提起、特別ニーズ教育及びインクルーシブ教育の概念（檜木） 第2回：個別の教育支援計画、個別の指導計画等の理解（檜木） 第3回：学習困難への対応①読み書きへの支援（荻田） 第4回：学習困難への対応②漢字書字への支援（荻田） 第5回：学習困難への対応③算数困難への支援（荻田） 第6回：学習困難への対応④数学困難への支援（荻田） 第7回：コミュニケーションの課題への対応（荻田） 第8回：自己理解を促す支援（檜木） 第9回：ソーシャルスキルの課題への対応（荻田） 第10回：特別な教育的ニーズの事例：学習意欲、自己肯定感（檜木） 第11回：特別な教育的ニーズに対応する授業づくり①小学校低学年（檜木） 第12回：特別な教育的ニーズに対応する授業づくり②小学校高学年（檜木） 第13回：特別な教育的ニーズに対応する授業づくり③中学校（檜木） 第14回：特別な教育的ニーズに対応する授業づくり④高等学校（檜木） 第15回：キャリア発達と学齢期の課題、まとめ（檜木）			

テキスト

特別支援教育免許シリーズ「特別支援教育概論」 建帛社（花熊暁・川住隆一・荻田知則，建帛社，令和2年1月）

特別支援教育ハンドブック（飯野順子・岡田加奈子・玉川進編著，東山書房，2014）

参考書・参考資料等

特別支援教育にかかわる養護教諭のための本（飯野順子監修 杉本健郎医学監修，ジアース教育新社，2013）

文部科学省 特別支援学校幼稚部教育要領（平成29年4月）

文部科学省 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月）

文部科学省 特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年改訂）

文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説総則編（平成30年3月）

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（平成30年3月）

特別支援学校学習指導要領解説教科等編（平成30年3月）

学生に対する評価

討議・報告・授業への取り組み（50%）、レポート等（50%）

授業科目名： 教育課題解決のための教育プログラム開発演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白松 賢、藤原 一弘
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：いじめ問題、ネットモラル教育など、現在学校教育現場で生起している諸課題について、深く理解し、その解決のためのプログラムを作成する事ができる。 【到達目標】 ①現代的教育課題の現状と特質を理解する事ができる。 ②教育課題解決のための基本的な視座を理解し、具体的なプログラム開発ができる。			
授業の概要 いじめをはじめとする様々な教育課題への対応を考え、その解決のための教育プログラム開発を演習形式で行う。とりあげる教育課題は、いじめ、思春期問題（性教育、薬物乱用防止、学校や社会への適応）、ネットモラル教育である。それぞれの課題の代表的な事例を検討し、その解決プログラムを、特別活動、道德教育、総合的な学習の時間を中心として開発する。それぞれの開発プログラムの作成と検討を通して、教育課題解決のための実践的能力の育成を図る。			
授業計画 第1回：教育課題解決のためのプログラム開発の意義（担当：白松賢・藤原一弘） 第2回：いじめ問題防止のプログラム開発（1）：事例の検討（担当：藤原一弘） 第3回：いじめ問題防止のプログラム開発（2）：プログラムの作成（担当：藤原一弘） 第4回：いじめ問題防止のプログラム開発（3）：プログラムの検討（担当：藤原一弘） 第5回：いじめ問題防止のプログラム開発（4）：プログラムの発表（担当：藤原一弘） 第6回：学校における生徒指導体制の構築（1）：事例の検討（担当：藤原一弘） 第7回：学校における生徒指導体制の構築（2）：プログラムの作成（担当：藤原一弘） 第8回：ネットモラル教育プログラム開発（1）：事例検討（担当：白松賢） 第9回：ネットモラル教育プログラム開発（2）：学級活動の指導法（担当：白松賢） 第10回：ネットモラル教育プログラム開発（3）：プログラム作成（担当：白松賢） 第11回：ネットモラル教育プログラム開発（4）：プログラム改善（担当：白松賢） 第12回：ネットモラル教育プログラム開発（5）：発表と検討（担当：白松賢） 第13回：生徒指導の事例研究（1）：思春期問題（担当：白松賢・藤原一弘） 第14回：生徒指導の事例研究（2）：食育と生活習慣（担当：白松賢・藤原一弘） 第15回：授業の総括と課題の確認（担当：白松賢・藤原一弘）			

テキスト

毎回、資料を配布する。

参考書・参考資料等

小・中学校学習指導要領解説 特別活動編、道徳編、総合的な学習の時間編（文部科学省、平成29年7月）

生徒指導提要（文部科学省、平成22年）

学生に対する評価

討議・報告・授業への取組（30％）、プログラム実習（20％）、レポート（50％）

授業科目名： 心の教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾 茂樹、一色 芳枝、 太田 佳光 担当形態：複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現代の教育課題への対応のため、道徳教育や集団活動・学校行事を通じた、学校全体での心の教育のあり方を具体的な事例を通じて理解するとともに、自分なりに実践案をデザインし、実践する。具体的な到達目標は以下の通りである。			
1. 心の教育の課題とあり方について理解し、その重要性について説明ができる。			
2. 道徳教育や集団活動・学校行事を中心とした心の教育の方法について理解し、実践的な取組ができる。			
授業の概要			
規範意識の低下やいじめなどの現代的課題に対応するために、道徳教育を中心とし、集団活動・学校行事を視野に入れた心の教育の理論とその方法論について検討する。まず、道徳科を中心とした心の教育の取組について、事例検討を深め、具体的な授業案の作成を行う。さらに、授業案の検討を通して、教科化を視野に入れた道徳教育のあり方について考察する。また、集団活動・学校行事を中心とした取組についても同様に検討を行い、心の教育を実践する能力を育成する。			
授業計画			
第1回：心の教育の課題と必要な視点			
第2回：心の教育の基本的な考え方と理論的背景			
第3回：道徳教育を中心とした取組の事例検討（1）：幼稚園を中心にして			
第4回：道徳教育を中心とした取組の事例検討（2）：小学校を中心にして			
第5回：道徳教育の事例検討（1）：幼稚園の取組を中心にして			
第6回：道徳教育の事例検討（2）：小学校の取組を中心にして			
第7回：道徳教育の指導案作成			
第8回：指導案の発表と討議			
第9回： 集団活動・学校行事における心の教育の視点			
第10回： 集団づくりを中心とした取組の事例検討（1）：幼稚園を中心として			
第11回： 集団づくりを中心とした取組の事例検討（2）：小学校を中心として			
第12回： 集団づくりに必要な視点			

第13回：集団づくりの指導案の作成

第14回：指導案の発表と討議

第15回：授業の総括と課題の確認

（毎回、3名による担当）

テキスト

毎回、資料を配布する。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編・特別活動編」』平成29年7月、文部科学省

『幼稚園教育要領解説』平成30年2月、文部科学省

学生に対する評価

指導案の作成、授業での発表・協議への参加、最終レポート等を考慮して、総合的に評価。

授業科目名： 地域協働型デジタル 教材開発演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 山本 浅幸、大西 義浩、 井上 洋一、日野 克博、 森 慎之助、向 平和、 立松 大祐、井上 昌善、 玉井 輝之 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 【授業テーマ】 地域の現職教員との協働活動を通して実用性あるデジタル教材を開発 【到達目標】 学部卒業者：子供の学習効果を視野に入れた上で、連携実習校及び自らが赴任する学校におけるデジタル教材を、地域の現職教員と協働した上で、開発することができる。 現職教員：子供の学習効果を視野に入れた上で、勤務校において使用可能なデジタル教材を開発し、その効果を検証するとともに、学校内外に対してデジタル教材を頒布できる。			
授業の概要 本科目は、①デジタル教材の作り方、②言語社会系デジタル教材開発プログラム、③自然科学系教材開発プログラム、④芸術健康系教材開発プログラム、⑤教科外教材開発プログラム、⑥発表会に向けてのデジタル教材開発演習と発表会の6つの下位プログラムより構成される。 履修者（大学院生）と地域の現職教員とで複数のチームを編制し、デジタル教材開発にあたる。各チームには担当教員を配置し、開発過程を支える。 地域の小・中学校教員に開放された授業科目であるため、主として、土日・長期休業日を利用した通年集中講義の形態をとる。			
授業計画 第1回：ガイダンス （担当：全員） 第2回：デジタル教材の作り方講座（1）：パワーポイントでの教材開発 （担当：大西義浩、森慎之助、玉井輝之、山本浅幸） 第3回：デジタル教材の作り方講座（2）：写真・動画編集 （担当：大西義浩、森慎之助、玉井輝之、山本浅幸）			

第4回：デジタル教材の作り方講座（3）：デジタル教材作成アプリの活用法

（担当：大西義浩、森慎之助、玉井輝之、山本浅幸）

第5回：デジタル教材の作り方講座（4）：小テストの開発

（担当：大西義浩、森、慎之助、玉井輝之、山本浅幸）

第6回：言語社会系デジタル教材開発（1）：事例学習／国語

（担当：立松大祐、井上昌善、山本浅幸、外部講師）

第7回：言語社会系デジタル教材開発（2）：協働演習／国語

（担当：立松大祐、井上昌善、山本浅幸、外部講師）

第8回：言語社会系デジタル教材開発（3）：事例学習／社会

（担当：立松大祐、井上昌善、山本浅幸、外部講師）

第9回：言語社会系デジタル教材開発（4）：協働演習／社会

（担当：立松大祐、井上昌善、山本浅幸、外部講師）

第10回：言語社会系デジタル教材開発（5）：事例学習／外国語活動・外国語

（担当：立松大祐、井上昌善、山本浅幸、外部講師）

第11回：言語社会系デジタル教材開発（6）：協働演習／外国語活動・外国語

（担当：立松大祐、井上昌善、山本浅幸、外部講師）

第12回：自然科学系デジタル教材開発（1）：事例学習／算数・数学

（担当：向平和、山本浅幸、外部講師）

第13回：自然科学系デジタル教材開発（2）：協働演習／算数・数学

（担当：向平和、山本浅幸、外部講師）

第14回：自然科学系デジタル教材開発（3）：事例学習／理科

（担当：向平和、山本浅幸、外部講師）

第15回：自然科学系デジタル教材開発（4）：協働演習／理科

（担当：向平和、山本浅幸、外部講師）

第16回：自然科学系デジタル教材開発（5）：事例学習／家庭・技術家庭

（担当：向平和、山本浅幸、外部講師）

第17回：自然科学系デジタル教材開発（6）：協働演習／家庭・技術家庭

（担当：向平和、山本浅幸、外部講師）

第18回：芸術健康系デジタル教材開発（1）：事例学習／音楽

（担当：日野克博、井上洋一、山本浅幸、外部講師）

第19回：芸術健康系デジタル教材開発（2）：協働演習／音楽

（担当：日野克博、井上洋一、山本浅幸、外部講師）

第20回：芸術健康系デジタル教材開発（3）：事例学習／図画工作・美術

（担当：日野克博、井上洋一、山本浅幸、外部講師）

第21回：芸術健康系デジタル教材開発（4）：協働演習／図画工作・美術

(担当：日野克博、井上洋一、山本浅幸、外部講師) 第22回：芸術健康系デジタル教材開発（5）：事例学習／体育・保健体育 (担当：日野克博、井上洋一、山本浅幸、外部講師) 第23回：芸術健康系デジタル教材開発（6）：協働演習／体育・保健体育 (担当：日野克博、井上洋一、山本浅幸、外部講師) 第24回：教科外デジタル教材開発（1）：事例学習／生活・総合的な学習 (担当：山本浅幸、外部講師) 第25回：教科外デジタル教材開発（2）：協働演習／生活・総合的な学習 (担当：山本浅幸、外部講師) 第26回：教科外デジタル教材開発（3）：事例学習／道徳・特別活動 (担当：山本浅幸、外部講師) 第27回：教科外デジタル教材開発（4）：協働演習／道徳・特別活動 (担当：山本浅幸、外部講師) 第28回：発表会用デジタル教材開発・調整 (担当：全員) 第29回：発表会（1）：前半グループ発表、省察協議 (担当：全員) 第30回：発表会（2）：後半グループ発表、省察協議 (担当：全員)
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 黒澤和人著『Web教材制作演習ーデジタル教科書&アニメーション』丸善プラネット、2017年 中川一史著『GIGAスクール・1人1台端末に対応！ 小学校国語「学習者用デジタル教科書」徹底活用ガイド』明治図書出版、2021年
学生に対する評価 各プログラムにおいて作成するデジタル教材の質、発表会に出展するデジタル教材の質とプレゼンテーションの質を総合的に評価する。

授業科目名： 子どもの問題行動の事例研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 信原 孝司、一色 芳枝、 佐藤 栄治
			担当形態： 複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (1)子どもの問題行動の背景を理解し、個別対応的な実践力を習得している。 (2)学校現場の実情に即して児童生徒の問題行動を理解し、研究的アプローチを進めることができる。			
授業の概要 時代の変遷とともに家庭環境や地域環境は変化し、子どもの問題行動の深刻化が指摘されている。本授業では、事例研究の手法を通して、子どもへの個別対応の意義を考え、子どもの問題行動への理解を深め、個別対応的な実践力の習得を試みる。事例研究の対象とする具体的問題行動は、いじめ、不登校、非行等である。生徒指導、進路指導、教育相談等におけるアセスメントや教育的指導・心理的援助の方法等に関する知識・技能の習得を目指したい。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：事例研究の意義と専門性 第3回：不登校事例から問題行動を考える 第4回：事例対応基礎演習1：幼稚園・小学校のケース 第5回：事例対応基礎演習2：中学校・高等学校のケース 第6回：学校現場から問題行動を考える：幼稚園・小学校のケース 第7回：学校現場から問題行動を考える：中学校・高等学校のケース 第8回：相談機関から問題を考える1：適応指導教室 第9回：相談機関から問題を考える2：松山市教育支援センター 第10回：事例対応応用演習 第11回：個別事例から考える1 いじめ問題 第12回：個別事例から考える2 不登校問題 第13回：個別事例から考える3 非行問題 第14回：個別事例から考える4 保護者対応 第15回：講義のまとめ（振り返り）			

定期試験
テキスト：資料を必要に応じて配布する。
参考書・参考資料等 教師教育講座第11巻「教育相談」（石田弓編著，協同出版，2014） 「カウンセリングの実際問題」（河合隼雄，誠信書房，1970）
学生に対する評価 授業での討議・報告と授業への取り組み（50％），レポート（50％）

授業科目名： 児童生徒・保護者の教育相談実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 信原 孝司、熊野 みき 担当形態： 複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (1) 児童生徒の様々な問題行動を理解し、教育相談の実践方法を習得している。 (2) 児童生徒の協力者としての保護者と連携し、教育相談を実践的に進めることができる。			
授業の概要 家庭環境や地域環境の変化に伴い、児童生徒の問題に保護者といかに協力・連携関係を紡ぎ協働していくかが、学校教育の課題となっている。この課題に対して本授業では、児童生徒の発達課題や問題行動への理解を深め、教育相談の具体的方法を検討し、その実践力を習得する。			
授業計画 第1回：ガイダンスとオリエンテーション 第2回：不登校問題の理解 第3回：いじめ問題の理解 第4回：非行問題の理解 第5回：児童虐待について 第6回：教師のメンタルヘルスについて 第7回：保護者との連携について 第8回：事例から傾聴を考える 第9回：日常の相談と専門的相談 第10回：カウンセリングの応答実習：紙上 第11回：カウンセリングの応答実習：聴取 第12回：教育相談場面を想定したロールプレイ 第13回：教育相談機関の実際（心理判定員との協働） 第14回：教育相談機関の実際（教育支援センターとの協働） 第15回：ふりかえり・まとめ 定期試験			
テキスト：資料を必要に応じて配布する。			
参考書・参考資料等			

教師教育講座第11巻「教育相談」（石田弓編著，協同出版，2014）

「カウンセリングの実際問題」（河合隼雄，誠信書房，1970）

学生に対する評価

授業での討議・報告と授業への取り組み（50％），レポート（50％）

授業科目名： 健康と食育の生活指導	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岡本 威明、糸岡 夕里、 上田 敏子、田頭 良博
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、現代的課題を踏まえた生活習慣づくり・健康教育の果たすべき役割と方法について、学校における専門職としての養護教諭を目指す者、及び幼年期から青年期へと成長する時期の成長を担う教員を目指す者を対象として、その理論と実践論についての見識を深める。			
授業の概要			
児童生徒の心身の健康を期することは、学校教育における重要な課題の一つである。しかしながら、複雑化した今日の社会においては、児童生徒をめぐる健康問題は多様化し、心身両面への学校保健としての対応が問題となっている。とりわけ近年は、子供たちの生活習慣の乱れが明らかとなっており、その対応および長期的な視点からの指導・支援が求められている。 本授業では、現代的課題を踏まえた生活習慣づくり・健康教育の果たすべき役割と方法について、学校における専門職としての養護教諭を目指す者、及び幼年期から青年期へと成長する時期の成長を担う教員を目指す者を対象として、その理論と実践論についての見識を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（講義計画，講義題に対する現状把握）（担当：全員）			
第2回：学校保健（学校における健康教育，疾病予防，薬物防止，がん教育）（担当：上田，糸岡）			
第3回：心の健康（児童・生徒のメンタルケア，保健室登校・不登校対応）（担当：上田，糸岡）			
第4回：性に関する指導（発達段階・発達特性に応じた性に関する指導の理論と方法） （担当：糸岡，田頭）			
第5回：心の健康に係る学校現場の課題と対応（保健室経営に関する実践を通じた研究） （担当：上田，田頭）			
第6回：食の教育①（健康な食習慣づくりの理論と方法）（担当：岡本，上田）			
第7回：食の教育②（アレルギーへの対応，学校給食）（担当：岡本，糸岡）			
第8回：メディア・コントロール（ゲーム依存等対策の理論と実践）（担当：田頭）			
第9回：基本的生活習慣づくりの理論と方法①（学校における基本的生活習慣づくり） （担当：田頭，糸岡）			
第10回：基本的生活習慣づくりの理論と方法②（家庭における生活習慣づくり）			

(担当：糸岡，岡本) 第11回：運動習慣（学校教育全体及び授業を通した体力づくり）（担当：糸岡，岡本） 第12回：学校・家庭・地域の連携（健康教育・安全教育に関する校内組織・教育課程，家庭・地域との連携体制）（担当：田頭，岡本） 第13回：授業づくりについての教材研究（生活習慣づくりと健康教育に関するテーマを設定しての教材研究）（担当：全員） 第14回：研究発表会①（授業構想発表・協議）（担当：全員） 第15回：研究発表会②，まとめ（授業構想発表・協議，全体の総括）（担当：全員）
テキスト 必要に応じて資料を配布する。
参考書・参考資料等 ○文部科学省「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」 (H29年3月) ※web ページ ○文部科学省「生徒指導提要」(R4.12月) ※web ページ ○学校保健ハンドブック＜第7次改訂＞，教員養成系大学保健協議会，ぎょうせい，2019
学生に対する評価 授業ごとの課題（80%），授業への取組（20%）